隔年

十月上亥の日玄猪悦　十三日御影講 日蓮宗

廿日恵比須講 正月の如し

十一月八日鞴祭鍛冶鋳物師悦　十五日髪置 三

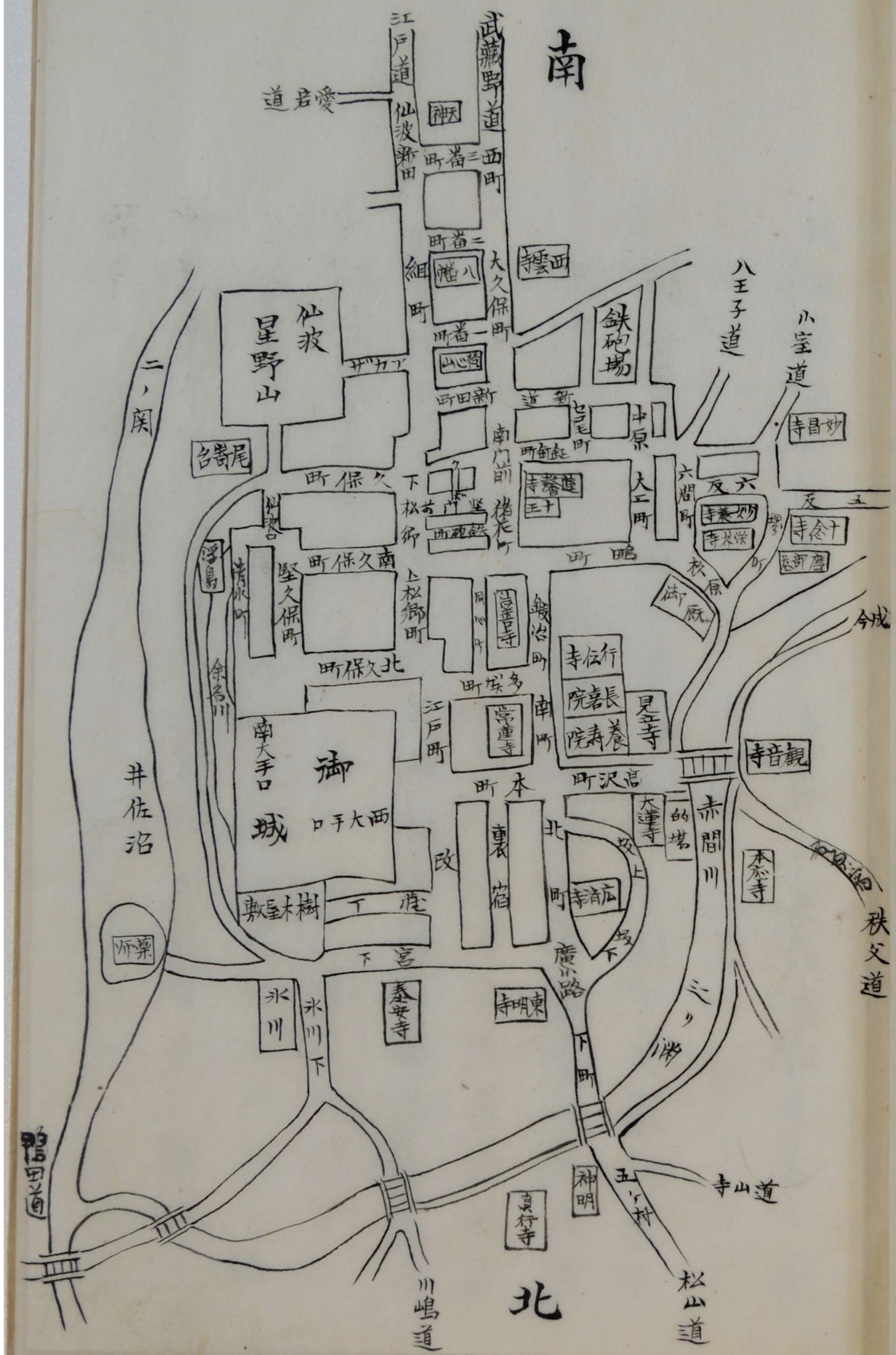
才の小児悦　廿二日より廿八日まで一向宗勤行

十二月八日筆納 二月と合じ　十三日大方此日煤掃

廿日前後諸處餅搗　廿四日松江市　晦日夜

札辻市立

川越惣繪圖



来歴

本町長百九間當地最初より人里にして昔は本宿といひしか繁花にしたがひいつとなく本町と唱来れり

高澤町長百十間四尺　竹沢九郎と云者起立の町なればしか云　いつとなく今は高沢町と書来れり　竹沢右京亮なとの類族の人か近頃まで竹沢氏の末裔當所に住しこの今以ありや

北町長百六十六間　大昔は東の寺町と云　御朱印地の頃門前町の由かの寺衰微以来北町と呼ならはせり

南町長百六十八間五尺　本名厩市場と云　昔は外に市と云事なく當町に一ヶ月六斉の厩の市立し由世俗に厩道場と云誤りし也　札の辻南北なればとて中古より北町南町と云

江戸町長百六十六間　昔は江戸海道といひしが塔下繁花に隨ひいつとなく今江戸町と呼直したり

多賀町長九十八間　本字箕町也　元来桶屋

取立の町なればかく名付たり中古多賀所と
書替たり依て一丁諸役ゆるされ年々篭の道
上手を差出す為時外の商人も住とも稲屋商
賣の者多し
鍛冶町長壱丁三間四尺　往古両側家数十二軒
皆鍛冶也　略善太　鴫宗右衛門　平井治兵
衛　加藤甚兵衛なとし云　鍛冶奈刀或槍矢
根等相鍛へ余八軒は相しれず　其昔堺主大
導寺氏の時代より鍛冶役錫とて上納し其外
諸役許されし今以て昔の通り也　近代十二軒

の家主皆没て加藤甚兵衛一人のみ殘り城
下近辺の鍛冶甚兵衛を師とす當時甚兵衛は
鍛冶は相止商人也
鴫町長二百七十間　往古は此所大なる馬場也
其後鴫善太と云鍛冶居住して一丁を取立依
て鴫町と呼ならはせり
上松郷町長百十八間三尺往古此辺仙波あたり迄
は漫々たる泥海なり　為く星野山縁起に有
或時里人綱を引大き成松江のことき鱸を引
上けたり　依て松郷といひならはせり　今

上下二つに分れ此所甚古き所なり　元禄の比美濃守殿時代市の義を願ひ五月四日、十二月廿四日両度の市ゆるされ今程は松郷市として繁花せり

下町長六十間三尺　古此處東明寺の構の内なり　其後町となり城下町並より一段低か故雖下町と呼来れり　横町に少しの町屋有　元尺側こしか亨保回禄の後両側となれり

改　西大手先本町角より宮の下角まで百五十二間　両側侍屋敷数九間軒

大手先の惣名也。其昔評定所と云ふ事もなく大科小過の輩此處にて糺明ありし故、世俗にかくいふ。今以此邊に會所を建て、賞罰嚴重に人の堪否をしり理非分明にして、物の奸直を糺し、公事沙汰の裁許あるも偏に古の遺風也。ひと、せ美濃守殿威光厚く今二三年も當城御領主ならば町分の寺方不残田島新田に移され、又此所本町角より北會所江戸町大部屋の角迄兩所共に家居破壊して廣小路となし、大腰掛等建てられへきに極りしに、寶永二所替に付此事やみしとや。

南久保町　長百三十一間　両側侍屋敷九軒
北久保町　長百三十九間三尺五寸　両側侍屋敷十軒
竪久保町　長百二十三間　両側侍屋敷七軒
侍屋敷住地の家名は時として偏するにより巨細不記坪数の間他も畧之　余下准之
清水町　長百十一間三尺　両側侍屋敷十軒　慶長の頃大樹家康公御鷹野の折から、此所の清泉召上られ御賞味有し故いつとなく、清水町とよひならはせり。
宮ノ下　長百五十四間　両側侍屋敷数廿軒（本名、代官町と云）　昔は東木戸より外氷川前通の道を宮の下と云ひしが、何時となく改より北代官町家中屋敷までの惣名也。伊豆守殿代官十六人此所にて屋敷給はり住居せし故かく名付たり。
裏宿　長百四十五間　両側侍屋敷六軒　昔は本町を本宿と云しに対して名也。昔は此邊も東明寺境内なり。
大久保町　長二百二十八間三尺（両側侍屋敷廿一軒）　世俗に立新田町と云地面脇田分　昔は此邊都て武蔵野也。今は南二里程先に武蔵野といふ廣原あり。元来當所南

北地高にして、丁半に至り七八尺斗凹なり、依てしかいふ。

大久保町新道　元は七百坪余の屋敷也享保三戊十二月九日回禄後同四年其屋敷真中に新道を付両側屋敷二軒一屋敷三百六十八坪其後屋敷出来今は古の道如し。

新田町　長九十九軒　両側屋敷八軒、　大久保町横手の屋敷町。

瀬尾町　長八十七間　両側侍屋敷十一軒　古代大屋敷にて瀬農下總守と云者川越城代として此所に有りし由伊豆守殿時代岸傳左衛門と云者住居の由。

大工町　長二百十間三尺　両側侍屋敷十一軒　鳴町入口の方に少々町家あり。此處松郷分也。元來大工取立の町なればかく名付たり。家中と町屋の境両側杉林あり。元侍屋敷二軒の跡也。

中原町　長（下欠）　古來侍屋敷少く誠に中原也。當御代に至り、段々屋敷建今両側全成就せり。

仙波口　牛小橋より木戸まで三十三間　侍屋敷両側二間　家中町入口なれば外曲輪の意味を含

み、水戸の内に三百坪の馬たまりを構へ、水戸向屋敷伊豆守殿家来、尼子八郎兵衛居之今太田氏屋敷長屋の角に番所に用たり。一軒は享保の頃新規に出来。今田谷氏居住也

坂上　北町の角より牢獄角まで四十四間四尺牢より坂まで八十四間

坂下　長八十三間　此所古来より侍屋敷也。享保十四酉回禄の後、新規に屋敷割有行止の所両側屋敷四軒立。

藏町　長百二十七間　両側侍屋敷合九軒　昔此處御城米藏あり。新曲輪御出来、其所へ引けたり。

御厩　高沢の末養寿院の境内也　伊豆守殿松原三〻家の辺を代地に給はり九三ヶ坪余是を引替四方表長屋を馬場とし厩屋廿六ヶ所長屋建ふ〻ふ馬場長六十三間

五反畑　此所伊豆守殿時代遊佐善左衛門下屋敷也。地面五反あり。

六反畑　長百十七間　南方道百二十七間　此所北側町屋は不残妙養寺の門前也。元南方は松郷分の畑なり。享保の頃新に屋敷建南片側に九軒有。五反畑に對して六反畑といふ。

御厩　高沢の末　養寿院の境内也。伊豆守殿杉原三〻家の邊を代地に給はり凡三千坪余是を引

替西方表通を馬場として廐屋其外長屋建ならふ。馬場長九十三間幅六間。

御廐下　御廐下御鷹部屋入口　道六十間　侍屋敷四軒片側也。昔は川端通今伴氏屋敷跡を堺町への近道ありし由。

古長屋　中原町　五十間長屋と云　正徳の頃三間屋敷跡へ南北五十間の長屋建る。享保三類燒にて、亦南の方に東西四十九間に建る。

新長屋　同　元此所北側に足軽屋敷五軒あり。今は七軒。其後三十間の長屋二つ東西にならびも建り。

六軒屋　古長屋西手裏通、此所も初は小屋敷六軒也。今は九軒あり。

三軒屋　西町の裏手　享保の頃、小屋敷三軒也。今は四軒あり。

西町　長二百三十八間、両側組屋敷四十軒　此所美濃守時代出來、通町の西なる故にかく云。

組町　世俗通町と云ふ　長さ七町四十五間下松郷木戸際より仙波新田堺まで　両側皆組屋敷、左右合て屋敷数百十軒、一屋敷坪数八畝宛、但二十軒置

に九畝余の屋敷一つ宛あり。是は伊豆守殿時代、足輕、一組二十人にて、一組切に屋敷給はり、夫に小頭一人宛差置れ候、其小頭の屋敷の地割なり。昔は一番町突當より、松郷木戸際まで、東側仙波分にて、両側斗組屋敷也。其代地、大仙波村にて出し、是を引替へ、今全く両側組屋敷となる。尤此通今以、大仙波脇田、松郷分、入込の所なり。

一番町　長百四十二間、両側組屋敷二十七軒

二番町　長百七十一間、両側組屋敷二十九軒

三番町　長百九十間、両側組屋敷四十軒

一番町は古代よりあり。二番町、三番町は、元園畑なり。伊豆守殿、新に此處に足輕町を建られん由にて、閑地、地割等も大方ならず、相濟ぬ然所、所替に付、其事止め。美濃守殿、領地となりて、又右の地割を以て、取立今全く成就せり。

同心町　長百三十五間三尺　多賀町横丁　伊豆守殿時代十人の町同心に給はり。片側五軒宛一屋敷間口十間宛伊豆守殿より代々當地に差置れたり。近頃迄両側表通皆竹藪にして、今組屋敷の構の如くなり、元禄の頃残らず表通貸屋にせり。

此所多賀支配分也。元西側の末より法善寺への道あり、今はなし。

大部屋　江戸町　中程東側にあり。入口左右に小屋敷二軒、是れ仲間頭の宅也。其内に長屋五ッ建、仲間雑人の部屋也。伊豆守殿頃より出来たり。昔は大部屋入口脇より南の方町屋の裏通北久保町木戸際迄の道あり。中古ふさがれたり。

仲間小屋　坂下　外長屋構にして、内に仲間頭の宅有。是坂下の大部屋といふ。

廣小路　享保の頃まで侍屋敷有しか酉二月十八日回禄以後下町よりの見付に廣小路を構へ喰違の土手を築其節新堀も出来たり。

杉原町　寺門前郷分入込の所　此所東側は行傳寺分、西は栄林寺大門より栄林寺分、大門より南は鳴町分。

堺町　本名餌差町（御鷹部屋脇より妙昌寺前通り迄の惣名也中鳥屋あり、餌指差十人も住せし也其頃より餌差町と云）東は松郷分西は野田分其堺に道有故かくいふ。

六間町　長二百十七間　昔は喜之助町と云。模本勘解由と云者取立の所也。元妙養寺前に家居六軒あり、其所を六軒町と云。いつか當所の惣名と